

看護学研究科

修了生の声

~Graduate's Voice~



安岡 久美子 さん

大阪大学医学部附属病院 勤務

2024 年度 修士課程 修了
(看護開発科学分野)

補助人工心臓看護において 根拠ある看護実践の第一歩

Evidence Based Practiceを臨床で実装したいと思い、大学院に進学しました。しかしながら、入学時には、具体的な研究テーマは決まっていませんでした。補助人工心臓装着患者の看護に関する研究はほとんどなく、根拠を創りだすことに視点を転換し、病棟看護師の看護実践について研究しました。全国の補助人工心臓実施施設において複数施設から協力が得られ、補助人工心臓看護の実践の基盤が構築できたと思います。勤務しながらの履修でしたが、長期履修のおかげで、無理なく修了できました。今後は、臨床現場でのEvidence Based Practiceの実装やevidenceの構築をしていきたいと思っています。



現在のお仕事

補助人工心臓に関わる事はなくなりましたが、Evidence Based Practiceの実装やevidenceの構築はどんな分野でも可能なので、根拠ある看護実践を目指せるよう模索しています。

看護学研究科



内田 朱音 さん

兵庫医科大学 勤務

2023 年度 修士課程 修了
(母性看護学 分野)

精神疾患を持つ妊婦とその家族を 支援する研究を繋げる

臨床経験から、精神疾患を持ちながら妊娠した女性やその家族を支えるための研究がしたいと、大学院への進学を決意しました。大学院へ進学するにあたり、仕事との両立に不安を抱いていましたが、長期履修制度の活用や先生方にゼミの日程を調整していただけたので、仕事を継続しながら無事修了することができました。

大学院では先生方や様々な領域の院生との関わりを通し、自分自身の看護を今一度見つめなおす貴重な時間を過ごすことができました。今後も精神疾患を持ちながら妊娠した女性とその家族を支援するための研究を継続し、看護へ繋げることができればと考えています。



現在のお仕事

現在は教員として勤務しています。今までの臨床での経験や大学院での経験を、教育の場でどのように活かすことができるのかを日々模索しながら、少しでも学生さんの力になれるよう奮闘しています。

看護学研究科



難波 亜衣 さん

**神戸市立医療センター
中央市民病院 勤務**

2022 年度 修士課程 修了
(がん看護 CNS 分野)

先輩ナースへの憧れから、がん看護
専門看護師を目指す

がん看護専門看護師である先輩ナースへの純粋な憧れから大学院進学を目指しました。大学院では、教授や院生とのディスカッションを通じて、これまでの自身の看護の経験に言葉を与え、新たに立ち止まって見る力、俯瞰して見る力などを教わることができました。また、職場からは休職期間をいただき、夫や教授の協力を得ながら育児と家事と学業とを行い、かけがえのない院生仲間ができ、充実した学生生活は貴重な経験となりました。研究テーマである、化学放射線療法を受ける中下咽頭がん患者さんがセルフケアを継続していくための支援を、今後の活動の中で活かしていきたいです。



現在のお仕事

復職して、緩和ケアセンターに配属となりました。院内を横断的に活動する部署で、大学院での学びを、がん患者さんへ還元できるように、どんな看護ができるのか、自身と向き合う毎日です。

看護学研究科



荻野友子さん

**糖尿病・代謝内科 宮田クリニック
および大学 勤務**

**2019 年度 修士課程 修了
(慢性看護学分野)**

研究結果を臨床現場に活かす

私の研究テーマは、「2 型糖尿病患者の炭水化物摂取に関する認識」についてです。世間では炭水化物に関する話題が注目されていますが、意外なことに、2 型糖尿病患者様が抱えている炭水化物への認識は曖昧なものでした。今後は研究で得られた新たな知見を看護実践に取り入れ、豊かな療養生活が送れるような看護を実践していきたいと考えています。また、教育現場においては自身の看護経験や大学院での貴重な経験を学生さんに伝えていきたいと考えています。



現在のお仕事

糖尿病療養指導士の資格を生かして、糖尿病や生活習慣病患者様への生活指導を中心に、糖尿病患者様の自己管理能力を引き出し、それを実行できるようサポートしています。大学では、学生さんの自己効力感を低下させないような関わりや、学生さんが自分で考えられるような関わりを心がけています。

看護学研究科



松田真紀子さん

医療法人社団東信会

**世田谷リウマチ膠原病クリニック・
新宿南リウマチ膠原病クリニック 勤務**

**2018年度 修士課程 修了
(慢性看護学分野)**

多くの患者さんの声を聞き
臨床現場に活かす

大学院を目指す前に、まず科目等履修生として単位を取ることで入学後の取得単位が軽減されました。入学後も平日には東京で仕事、土日は飛行機で通学という生活でしたが、先生方に日程を調整していただけるので無理なく両立できました。治療が飛躍的に進歩した現在、患者さんは医療との間にギャップを感じながら治療を継続しています。関節リウマチ患者の治療に対する認識の過程を理解し、看護師が関わる必要性を感じ研究を行ってきました。新たに得られた知見を看護に活かすことが、私の使命であると思っています。



現在のお仕事

リウマチ・膠原病患者さん専門的に治療するクリニックで勤務をしながら、日本リウマチ財団の専門職委員や学会理事なども兼務しています。

看護学研究科



春藤 友香さん
名古屋女子大学 勤務

2017年度 修士課程 修了
(看護教育学分野)

視野が広がり仲間もできた 貴重な経験

大学院では、臨床での教育担当者経験から、教育担当者自身が一皮むけたと感じた経験がいかに自身の成長を支えているかについて研究しました。その結果、経験を振り返ることの重要性に気付きました。また、医療科学研究科との共通科目ではPTやOTの方とディスカッションをし、それぞれの職種の考え方を知ることができ、とても視野が広がりました。土日に授業が開講されていたことや、先生方も一人一人のペースに合わせて指導してくださり、働きながらも研究を進められたことが良かったです。さらに、同期生や先輩方との日々がとても刺激的で、かけがえのない仲間ができたことも、私にとってとてもありがたいことだと感じています。



現在のお仕事

大学院での経験をもとに、現在は教員として働いています。少しでも、学生さんの成長を支える事ができるよう、日々奮闘しています。

看護学研究科



林 詳子 さん

**医療法人協和会 協立病院
救急外来 勤務**

2016年度 修士課程 修了

(急性看護 CNS コース)

感覚で判断しない
ロジカルな思考を持つ専門看護師へ

看護師として働く中で、私たちの立場からも臨床研究を行う必要性を感じ、大学院進学を志望し、専門看護師の資格取得を目指し CNS コースを受講しました。教授や先輩からは熱心にご指導いただき、専門看護師に不可欠なロジカルな思考が身につきました。また、キャリアも分野も異なる仲間との日々のディスカッションで、看護の視野も広がりました。これらの学びから、復職後は目の前の問題に対し経験と感覚だけで判断せずに、立ち止まって考え実践しています。医師を含め多職種と議論し連携した医療を提供しています。研究テーマだったせん妄ケアは、スタッフとともに院内の専門チームと連携し、せん妄の重症化を予防する支援を続けています。



現在のお仕事

救急外来で、多職種とともに、予期せぬ体調変化や事故により、生命の危機に置かれる方々の状態が早期に安定化し、患者とその家族が望む生活が送れるよう支援しています。